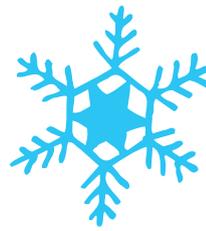


しろいし



2019
冬
第192号

市議会だより

[表紙写真]

平成30年11月4日、市議会議場を会場に、市内全6校の中学生を対象とした「白石市中学生議会」を開催しました。



- 2~4P 12月定例会の概要・審議した議案
- 4P 意見書・議案の賛否一覧
- 5~6P 予算審査特別委員会
- 6~7P 常任委員会
- 7~12P 市政に対する一般質問(10名)
- 13P 白石市中学生議会
- 14P 意見交換会のお知らせ・編集後記



12月定例会 一般会計補正予算など18議案を可決

平成30年12月定例会は、12月7日から12月19日までの13日間の日程で開催されました。市長提出議案は、条例等7件、予算5件の計12件でした。

定例会初日、すべての議案の提案理由の説明が行われ、2日目、議案質疑が行われた後、第70号議案は、総務産業建設常任委員会に、第76号議案から第80号議案までの5議案は、予算審査特別委員会にそれぞれ審査が付託されました。残る6議案については、2日目に表決まで行われ、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

一般質問は、12月17日と18日の2日間、10名の議員が質問を行いました。

定例会最終日の本会議において、各委員長報告を行なった後、採決の結果、第70号議案及び第76号議案から第80号議案は、いずれも全会一致で原案のとおり可決しました。

また最終日に、市長提出議案4件(第81号議案から第84号議案)が追加提案され、質疑を経て、第81号議案については反対の討論があり、採決の結果、賛成多数で、残る3議案については、全会一致で原案のとおり可決しました。

同日、議員提案による議案6件(議提第2号から議提第7号)が上程され、提出議員による提案理由の説明を経て、採決の結果、議提第3号及び議提第4号は、賛成多数で原案のとおり可決、残る議案4件は、賛成少数で否決されました。



市長の提案理由説明

審議した議案の主なものは次のとおりです。

条例等

◎白石市農産物等販売施設条例

本地域で生産される農産物及び地域特産品を地域内で消費者に直接販売することにより、流通構造の効率化と消費の拡大を図り、もって地域農業

及び地域産業の活性化に資することを目的に、白石市農産物等販売施設を整備することから、当該施設の設置及び管理等について条例を制定するものです。

予算

◎平成30年度白石市一般会計補正予算(第4号)

議案番号	件名	審議結果
第69号	市 長 提 案 仙南地域広域行政事務組合規約の一部を変更する規約	原案可決
第70号	白石市農産物等販売施設条例	原案可決
第71号	白石市議会議員及び白石市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第72号	白石市地方活力向上地域における固定資産税の不均課税に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第73号	白石市旧学校利用施設条例の一部を改正する条例	原案可決
第74号	白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例	原案可決
第75号	指定管理者の指定について(あしたば白石)	原案可決
第76号	平成30年度白石市一般会計補正予算(第4号)	原案可決
第77号	平成30年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
第78号	平成30年度白石市介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決
第79号	平成30年度白石市水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
第80号	平成30年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決
第81号	白石市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第82号	白石市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第83号	白石市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第84号	平成30年度白石市一般会計補正予算(第5号) 議 員 提 案	原案可決
第2号	最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書	否 決
第3号	被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める意見書	原案可決
第4号	安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める意見書	原案可決
第5号	看護師の全国を適用地域とした特定最賃の新設を求める意見書	否 決
第6号	介護従事者の勤務環境及び処遇改善を求める意見書	否 決
第7号	介護従事者の全国を適用地域とした特定最賃の新設を求める意見書	否 決

12月定例会で審議した議案

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ4億101万2千円追加し、予算総額を153億5千242万7千円とするものです。

○白石市文化体育活動センター
アーリーナLED照明更新事業
4千827万6千円

○農産物等販売施設整備事業
354万7千円

○学力向上プロジェクト事業
31万8千円

○小中学校教室エアコン設置事業
3億1千103万9千円

○平成30年度白石市国民健康保険特別会計補正予算
(第2号)

◎平成30年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)

◎平成30年度白石市一般会計補正予算(第5号)
(定例会最終日提案)

◎平成30年度白石市介護保険特別会計補正予算(第3号)

◎平成30年度白石市水道事業会計補正予算(第1号)

◎白石市農産物等販売施設条例

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市文化体育活動センターアーリーナLED照明更新事業について、今回、ホワイトキューブのメタルハライド灯をLED照明灯へ更新する理由を伺う。

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

本会議質疑より

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市文化体育活動センターアーリーナLED照明更新事業について、今回、ホワイトキューブのメタルハライド灯をLED照明灯へ更新する理由を伺う。

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

◎白石市介護予防センター条例の一部を改正する条例

◎白石市農産物等販売施設

〔答弁〕現在、ホワイトキューブで使用しているメタルハライド灯は、経年劣化で照度に明暗が生じており、利用者から照明が暗いとの声も寄せられていた。

メタルハライド灯は水銀を含まれていることから、環境問題の面からも、国においてはLED照明への置きかえを勧めており、多くの製造メーカーも製造を中止している状況にある。また、LED照明灯は平均点灯寿命が長く消費電力も少ないことから、ランニングコストを大きく削減することができるとしている。

さらに事業費において、本市は東京オリンピック・パラリンピックでのベラルーシ共和国新体操ナショナルチームのホストタウンとして認定されていることから、交付税措置のある地域活性化事業債を活用することが可能であるため、今回、改修を行うものである。

〔質疑〕小中学校教室エアコン設置事業について、平成31年の夏までに整備は可能なのか。

〔答弁〕本議会において補正予算案が可決されれば、速やかに発注業務を行い、年度末までの設置を目指す。全国一斉にエアコン設置に取りかかることが予想されるため、エアコンの機材納入等が遅れた場合、繰越措置をとる可能性もある。

しかし、遅くとも平成31年の夏までにはエアコン設置を完了させる予定である。

〔質疑〕学力向上・パワーアップ支援事業について、なぜ埼玉県と共同で実施することになったのか。

〔答弁〕学力に関しては、一人一人の子どもの伸びについて、どれだけ伸ばせたかということに着目していくことが重要と考えている。

埼玉県では一人一人の伸びに着目した学力・学習調査を4年前から実施しており、今回、共同で実施できないか申し入れたところ合意が得られたため、補正予算に計上したものである。

意見書

定例会最終日(12月19日)、議員提案として次の議案6件が上程されました。

提出議員による提案理由の説明を経て、採決の結果、2件が原案可決、4件が否決され、可決された意見書は関係機関に送付されました。

◎最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書

◎被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める意見書

◎安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める意見書

◎看護師の全国を適用地域とした特定最賃の新設を求める意見書

◎介護従事者の勤務環境及び処遇改善を求める意見書

◎介護従事者の全国を適用地域とした特定最賃の新設を求める意見書

第433回 市議会定例会(12月19日) 意見が分かれた議案の賛否一覧

件名	議員氏名	議決結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			佐藤龍彦	保科善一郎	伊藤勝美	澁谷政義	沼倉啓介	平間知一	菅野恭子	志村新一郎	大野栄光	山谷清	四竜英夫	小川正人	菊地忠久	佐藤聡一	佐藤秀行	松野久郎	大町栄信	佐久間儀郎
第81号議案 白石市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例		原案可決	×	×	×	×	×	×	○	議	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
議提第2号 最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書		否決	○	○	○	○	○	○	×	議	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
議提第3号 被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める意見書		原案可決	○	○	○	○	○	○	×	議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議提第4号 安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める意見書		原案可決	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
議提第5号 看護師の全国を適用地域とした特定最賃の新設を求める意見書		否決	○	○	○	○	○	○	×	議	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
議提第6号 介護従事者の勤務環境及び処遇改善を求める意見書		否決	○	○	○	○	○	○	×	議	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
議提第7号 介護従事者の全国を適用地域とした特定最賃の新設を求める意見書		否決	○	○	○	○	○	○	×	議	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×

※「○」⇒賛成した議員、「×」⇒反対した議員、「欠」⇒欠席した議員、「議」⇒議長のため表決に加わらない

予算審査特別委員会

第76号議案・平成30年度白石市一般会計補正予算(第4号)から第80号議案・平成30年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)までの計5議案について、定例会2日目(12月11日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・佐藤秀行、副委員長・佐藤聡二)は、12月12日に審査を行い、すべての議案について、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎平成30年度白石市一般会計補正予算(第4号)

総務費

〔質疑〕ホワイトキューブアリの照明をLEDに更新することにより、年間500万円程度の削減が見込まれるとの説明があったが、次年度以降の予算において、その分の減額は考えているのか。

〔答弁〕現在、ホワイトキューブは公益財団法人白石市文化体育振興財団に指定管理者とし

て指定しているが、年数を区切って指定期間を定めていることから、今後の指定管理料に反映することも含め、使用状況を見きわめながら対応していきたいと考えている。

土木費

〔質疑〕施設整備としてスポーツ振興くじ助成金962万8千円

が歳入に計上されているが、どの施設に活用されたのか。

〔答弁〕これはトータルくじの助成金で、白石川緑地公園の陸上競技場改修工事請負費が対象となっている。

工事請負費の助成対象額1千742万円に対し、962万8千円の交付内定を受けたもので、平成30年9月末で工事が完了し事業費が確定したことから、今回、助成額を計上した。

工事の内容は、陸上競技場におけるフィールドトラックの土を購入し、平たんにならすための整地工事、また、走り幅跳び走路のウレタン舗装の再舗装を行なっている。

教育費

〔質疑〕学力向上パワーアップ支援事業は、埼玉県と同じような取り組みを行い、子どもたちの学力の向上を図るとい内容なのか。

〔答弁〕今回、学力検査の内容等について、本市の学力向上を図っていく上で有効であるという考えから、埼玉県で実施して

いる本事業の採用を決めた。本市としては、そのデータ等を活用しつつ、宮城県教育委員会の指導、支援を得ながら改善に取り組んでいきたいと考えている。

〔質疑〕学力向上パワーアップ支援事業を導入することにより、新たに教職員の負担はでてくるのか。

〔答弁〕今回、予算計上している事業は、問題作成から採点、結果分析まで業者委託となっていることから、本事業を導入することにより教職員の負担が増えることはないと考えている。

〔質疑〕小中学校教室エアコン設置事業として3億1千103万9千円が計上されているが、9月議会では約2億円になるとい内容があった。

今回、見積もりが約1億円以上増えた理由を伺う。

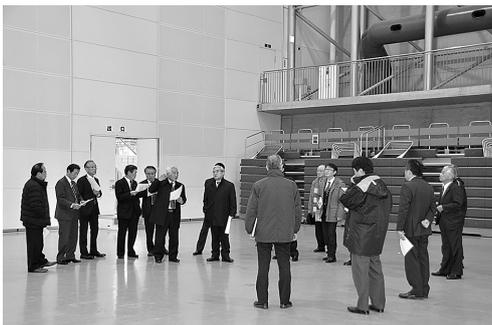
〔答弁〕9月時点においては、国からの指定が普通教室のみと提案されていたが、10月に普通

教室を最優先するが、希望があれば特別教室まで広げても構わないという通知をいただいた。このことから、白石中学校など一部の大きな学校の特別教室に導入する計画へ変更した。

また、それに伴い高圧受電設備の改修等も一部出てくることから、金額が増額となったものである。

〔質疑〕古典芸能伝承の館修繕費として、55万円が計上されているが、その内容を伺う。

〔答弁〕施設の非常用照明設備が老朽化していることから、その修繕を行うものである。



予算審査特別委員会の現地視察(ホワイトキューブ)

◎平成30年度白石市水道事業会計補正予算(第1号)

〔質疑〕上下水道事業所の事務室改修を行い、民間事業者による料金関係窓口を開設することのだが、その詳細を伺う。

〔答弁〕業務の内容については、窓口の対応を全て行なっていないが、電話についてもいったんは民間事業者が受けた上で、その内容によって市職員あるいは民間事業者への振り分けをしていただく。

また、料金関係全般も委託するため、水道メーター検針業務、水道料金計算業務、水道料金収納業務及び収納に対する遅延、滞納が発生した場合の督促等業務も一貫して行なっていたらどうかとなる。

〔質疑〕民間委託することにより、どのような効果を見込んでいるのか。

〔答弁〕窓口関係や料金関係を委託することにより、中心的な水道事業の部分に市職員を効率的に充てていきたいと考えている。

常任委員会

第69号議案から第75号議案までの計7議案について、定例会初日終了後、各常任委員会(付託協議)を開催し、第70号議案を総務産業建設常任委員会へ付託することに決定しました。

定例会2日目(12月11日)の本会議において質疑が行われた後、総務産業建設常任委員会に審査が付託され、12月13日に議案の審査が行われました。

質疑応答を経て、採決の結果、全会致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な内容は次のとおりです。

総務産業建設常任委員会

- 委員長 山谷 清
- 副委員長 大野 栄光
- 委員 保科善一郎・澁谷政義
- 菅野恭子・志村新一郎
- 四竈英夫・小川正人
- 佐藤聡一

◎白石市農産物等販売施設条例

〔質疑〕条例に定める「地域で生産される農産物」とは、本市だけの農産物なのか、それとも他地域も含めた農産物なのか。

また、他地域も含めるとし

た場合、その範囲はどこまでを想定したものなのか。

〔答弁〕本市で生産される農産物が第一となるが、年間を通して販売施設の農産物を本市の農産物だけで賄うことは量的に困難な部分もあることから、近隣市町で生産される農産物も取り入れることを想定している。

〔質疑〕販売施設の農産物を市内の農家で全て提供できるように、本市の全ての農家が協力できるような体制を構築していくべきではないか。

〔答弁〕本市の農産物供給体制については、販売施設のオープンに向けて、オール白石で臨めるよう、現在、販売施設の委託業者が市内の農家やJA等との話を進めている段階である。

〔質疑〕現段階で条例には記載がないが、本会議において「販売施設の将来的な指定管理者制度への移行を想定している」との答弁があった。

移行した場合、市の財政に大きな負担となるのではないか。

〔答弁〕指定管理者制度への移行がいつになるかなど、まだ具体的に決まっているものはないが、指定管理者制度へ移行するとなれば、指定管理者を公募し、選考委員会でその公募の中から1者を選び、市長への答申を経て、指定管理者制度を条例に制定する流れとなる。

たとえ指定管理者制度に移行するにしても、現段階において販売施設は採算がとれるものと判断しており、公募

の段階から地代・使用料等を設定するなど、むしろ市の歳入増につながるものと見込んでいる。

〔質疑〕条例には入館等の規制について「公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき」と記載がある。

全国的なインバウンドの取り組みにより多くの外国人が訪れる中、文化の違いによって、その捉え方に感覚の違いが出てくると問題が起きることも想定されるが、どのように考えているのか。

〔答弁〕現時点において、他の事例ではあるが、外国人との文化の違いによって引き起こされる問題があることも把握している。

デリケートな問題とは思いますが、そのようなことも想定し、オープンに向けて最善の対応ができるよう進めていきたい。

〔質疑〕規則には、休館日を「1月1日から1月4日まで」と定めているが、休館日に初売りなどのイベントをする場合は、どのように取り扱うのか。

〔答弁〕規則に休館日を定めているが、ただし書きに「必要と認めるときは、これを変更することができ」としていることから、休館日におけるイベントの開催は可能と考えている。

〔質疑〕規則には、毀損等の届出についてを定めているが、夜間時などに侵入者があった場合、どのように対応するのか。

〔答弁〕屋内外に防犯カメラを設置する予定であり、侵入者による器物破損があれば、警察へ届けた上で、必要な手続きをとりたいと考えている。

議会を傍聴してみませんか！

2月定例会は、2月22日(金)午前10:00開会予定です。

定例会は、年4回(2月・6月・9月・12月)開催されます。市の予算や決算、条例など、市民のみなさんに深く関わりのある議案が審議されます。

また、市議会では、インターネットによる中継を行なっています。議場で行われる本会議(議案審議・一般質問など)や予算審査をライブ中継や録画映像で視聴できます。

●12月定例会の傍聴者数 15人 ●ライブ中継の視聴者数 740人

市政に 対する 一般質問

〓〓10名の議員が質問〓〓

12月定例会の一般質問は、12月17日・18日の2日間にわたり行われました。質問の要旨は次のとおりです。

佐藤 秀行 伝統産業の継承について

松野 久郎 行財政改革について

四竈 英夫 新たな米生産対策(政策)について

菅野 恭子 住宅への蓄電池設置について

佐藤 龍彦 学校給食について

保科善一郎 市内小中学校の統廃合と廃校跡地利用について

菊地 忠久 幼児教育・保育の無償化について

大野 栄光 本市の中山間地のインフラについて

伊藤 勝美 市長の政治姿勢について

佐久間儀郎 いじめの現状と対策について

他 他 他 他 他 他 他 他 他 他

伝統産業の継承について

佐藤 秀行



〔質問〕伝統工芸品の後継者育成と技術の伝承を促進しなければならぬと思う。

地方創生事業である弥治郎こけし工人の後継者育成を目的とした伝統こけし工人後継者育成事業を、今後とも継続してほしいと考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕東北観光復興対策交付金事業の活用も視野に入れ、後継者育成事業とあわせて、本市の伝統産業継承の拠点、体験観光の拠点として海外からの観光客の増加を目指していきたくと考えている。

来年度においても、伝統こけし工人後継者育

成事業が継続できないか協議を進めているところである。

◎大学との交流・連携について

〔質問〕今年度、市内3中学校で東北生活文化大学による美術の出席授業が行われた。

今後ともスポーツ、文化、芸術、教育などの様々な分野で交流を深めていくことが交流人口の拡大、地域の活性化にもつながっていくものと思う。

各大学、また大学生との交流を図る取り組みを、今後とも進めていきたいと思います。市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕大学は専門的で幅広い知見を有しており、各種分野で連携を図り交流を深めていくことは、市政運営の

面からも重要であると考えている。

今後、いろいろな可能性を検討しながら、連携・交流を進めていきたい。

◎学力向上プロジェクト事業について

〔質問〕この事業に至った経緯、この事業にかける思いを伺う。

〔答弁〕〔教育長〕本市における学力向上は喫緊の課題であると認識しており、そのためにも子ども一人一人の学力の伸びを客観的データとして把握できる本調査は優れていると考え、実施の判断に至った。

この学力学習状況調査は埼玉県と共同で行うが、本市においては、この調査から得られるデータをもとに宮城県教育委員会の指導、支援を得て、市としての改善策をまとめ、教師一人一人の授業改善等につなげていきたいと考えている。

行財政改革について

松野 久郎



〔質問〕行財政改革推進計画の基本方針である「安定的な財政基盤の確立のうち「自主財源確保」の取り組み状況、実績を伺う。

〔答弁〕〔行政改革推進室長〕各改革項目について取り組みを行い、実績例として未利用財産の売却、貸与の推進では、土地の売却5件で5千121万円の売却実績があった。

また、企業誘致による税収の確保として、白石インター工業団地内での物流センターの事業開始、新たな収入の確保として、ふるさと納税の促進を図り、平成28年度から平成30年12月までで約6千万円の寄

附実績となった。今後も新たな収入の確保等の取り組みを継続強化していく。

〔質問〕一般財源が減少傾向となる中、今後の取り組みべき事業の優先順位の考え方について所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕地域の活力と賑わいを創出し「市民の笑顔あふれる白石」を実現していくため、将来的ビジョンを描きながら、20年、30年後のまちづくりを見据えた施策を展開し、選択と集中によるメリハリのあ

る行財政運営により、持続可能な効率的で質の高い行政サービスを維持していく。

また、インフラ・ハード整備についても、地域間の公平性、緊急性、重要性を検証し、優先順位を決定していきたい。

◎森林環境譲与税(仮称)について

〔質問〕平成30年度税制改正大綱において、森林環境譲与税が平成31年度から開始されることを踏まえ、本市の譲与税額の見込みについて伺う。

〔答弁〕〔農林課長〕本市の譲与税額は、私有林人工林面積などから県試算額として、平成31年度は1千万6千円と見込んでいる。

初年度は、森林所有者の意向調査準備が中心となり、地域林政アドバイザーの委嘱や対象森林の選定に充てる費用などを予算化し、進めていきたい。

【その他の質問】

◎有害鳥獣被害対策とイノシシに特化した駆除及び生息状況調査について

◎小学校の統合後の状況及び中学校統廃合の準備状況について

新たな米生産対策(政策)について

四 電 英 夫



進めるため、今後どのような方策をとるのかわう。

〔質問〕今年度から米の生産数量目標は生産者団体自らが立てることになり、米の直接支払交付金(10アール当たり7千500円)も廃止された。

〔答弁〕【農林課長】平成30年産以降も需要に合わせた米生産が必要となるため、宮城県農業再生協議会では生産の目安を提示している。今後白石市農政推進協議会を通して、生産の目安を提示するなど、米価の安定に努めていく。

さらに「とも補償制度」も廃止されたことから米の生産過剰による価格の低下が懸念されるが、新しい政策の下での作付状況はどうだったのか伺う。

〔質問〕小原温泉遊歩道は本市の観光スポットであるが、現在、遊歩道にかかっているつり橋が通行止めとなっている。通行できるようにして欲しいとの要望があるがいかがか。

〔答弁〕【建設課長】つり橋を支えているコンクリートブロックに亀裂があり通行止めとしているが、国の交付金事業を活用し、早期に修繕工事を終え、通行できるよう努める。

〔質問〕米の安定生産を

〔答弁〕【農林課長】平成30年産米は、主要米作付目安面積955ヘクタールに対し950ヘクタールの目安を達成することができた。

〔質問〕国道113号から小原温泉に入ってスパッシュユランドまでの区間は、市民バスや七ヶ宿町営バスのルートになっているが、落ち葉や落石、土砂の流入などで通行の妨げになる場合がある。対策を講じていただきたいが所見を伺う。

〔答弁〕【建設課長】市民バス、七ヶ宿町営バスの路線であり、小原温泉へのメインルートと地域住民の生活道路として重要な路線である。地元の方やバスの運転手から通報があれば迅速に対応している。

今後とも地域の皆さまのご協力をいただくとともに、巡視を強化し早期発見、早期対策に努めていきたい。

住宅への蓄電池設備について

管 野 恭 子



た、温暖化防止対策や災害時にも有効であることから、買い取り終了後に「自家消費」への切り替えがどの程度進むかが注目される。

〔質問〕一般家庭に太陽光発電を普及する目的で創設され、2009年11月から実施された「太陽光発電の余剰電力買取制度」(2012年に再生可能エネルギーの固定価格買取制度に移行)は、間もなく10年を迎える。

自家消費の場合、住宅用蓄電池の設置が必要であり、現在、1台設置に150万円程度を要するが、昨今、再生エネルギーを地域に根付かせる意義の重要性から、蓄電池設置に対し、補助金支給を行う自治体が増えている。

同制度は、家庭での余剰電力を10年間、固定価格で電力会社に売電できる仕組みであり、買い取り終了の数は、2019年度には約50万世帯、2023年度までには約160万世帯に達する見込みである。

宮城県内でも、大河原町、大崎市、大衡村等7市町村が実施しており、宮城県で実施の補助金8万円と併せて活用している。

太陽光など再生エネルギーは地域における電力の消費と生産を行う「地産地消」に適した分散型電源であり、ま

本市においても、ぜひ検討すべき事業と考へるが見解を伺う。

〔質問〕災害時、学校施設の体育館は、住民の避難所の役割を担うことから、国はその防災機能強化の一環として、体育館へのエアコン設置支援に尽力する方向で検討している。支援策が明確になった際に、本市も早期に設置すべきと考へるが見解を伺う。

〔答弁〕【市長】エアコン設置及び電気料の費用について、国がしっかりと責任を持つという仕組みになれば検討していきたい。

〔その他の質問〕

◎学校給食について

学校給食について

佐藤 龍彦



〔質問〕本市の給食において充足していない栄養素が目立つとの報道があったが、栄養が不足している状態となっている理由について伺う。

〔答弁〕【教育長】学校給食摂取基準の一部の栄養について、その基準を満たしていないことは、報道のとおりであり事実である。

このことは、食材が過去に比べて値上がりしていることや、昨年からの異常気象や自然災害で、価格変動の少ないニンジンやタマネギ、ジャガイモなどの価格も高騰していることも一つの要因だと考えている。ほかに、学校給食撰

取基準の一部の栄養素において、給食での文部科学省の設置基準が高く設定されているということも要因と指摘する専門家がいるのも事実である。

〔質問〕給食の栄養の充実を図るための対策を考えているのか伺う。

〔答弁〕【教育長】平成30年12月の献立における栄養摂取量は、報道にあったビタミンB1については、小学校での78.6%が97.6%に、中学校での78.0%が98.0%にと、献立使用食材の工夫により改善している。

引き続き献立の作成に当たっては工夫していきたいと考えている。**〔質問〕**給食の栄養の充実を図るために市が給食費を補助する考えはないのか伺う。

〔答弁〕【教育長】給食費の補助については、検討する予定はない。

◎就学援助について

〔質問〕生活保護基準の引き下げにより就学援助の対象から外れた事例はあるのか伺う。

〔答弁〕【教育長】本市においては、就学援助の対象から外れた事例はない。

〔質問〕本市は、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を実施する考えはないのか伺う。

〔答弁〕【教育長】本市においては、平成31年に入学する新小学1年生と新中学1年生に対し、入学前支給を行う。

支給時期は、平成31年2月末ごろを予定している。

【その他の質問】

◎いじめ・不登校問題について

市内小中学校の統廃合と廃校跡地利用について

保科 善一郎



〔質問〕小中学校の統廃合に伴い、廃校跡地活用という新たな課題が発生している。

廃校を負の遺産とするのではなく、人口減少社会における過疎地域のビジネスチャンスと捉えることも地域再生の方向と考える。

現在、廃校跡地の利用についてどのように取り組まれようとしているのか伺う。

〔答弁〕【教育長】旧斎川小学校跡地利用については、庁内において活用計画の検討を進めてきた。その中で、一部を公民館として活用する方向で地区とも相談している段階である。

南中学校、白川中学校については、今年度から検討を開始し、閉校となる平成31年度以降、本格的に検討を進めていく。

また、公共施設に移転することによるリノベーション施設としての活用については、公共施設の再配置計画の中で検討していきたい。

〔質問〕市長は9月定例会の一般質問に対し、本市の人口動態から見て、極論になってしまうと、言いながら、小学校と中学校が1校ずつでも足りるのではないかと、改めて真意を伺う。

〔答弁〕【市長】平成28年の本市の出生数は201人であり、今後とも間違いなく減少していくと推計されている。

9月議会において答弁したが、あくまでも極論であり、子ども数が少なくなっていることから述べさせていただいた。

◎農産物等販売施設について

〔質問〕建築中の農産物等販売施設については、安定した経営を目指すため出荷者の確保に努めることが肝要と思うが、その体制はどのようになっているのか伺う。

〔答弁〕【農林課長】農産物等販売施設の運営事業者については、NPO法人小十郎まちづくりネットワークに業務を委託している。

生産部会、物産部会などにおいて事業計画が策定され、基本方針や遵守事項などについて話し合いが行われており、生産者の確保のための勧誘活動や募集活動などを計画していると聞いている。

幼児教育・保育の無償化について

菊地 忠久



〔質問〕幼児教育・保育の無償化が2019年10月から実施されるが、消費税増税による増収分が地方にも配分されるという理由から、幼児教育・保育の無償化の財源を地方でも負担しなければならぬ。

今年度と同数の幼稚園児数・保育園児数と仮定した場合、本市の負担はいくらになり、消費税増税による本市の歳入増ほどの程度になると見込まれるか。

〔答弁〕【財政課長】無償化に伴う市の負担額は、約7千800万円から約1億1千200万円程度を見込んでいます。

また、前回の消費税増税時と同様に地方消

費税交付金の交付額が増額になっても普通交付税が減額になると推察しており、歳入全体で見ると消費税増税による歳入増はほとんど見込めない。

〔質問〕無償化により保育ニーズが高まると考えられるが、どの程度を見込んでいるか。

〔答弁〕【子ども家庭課長】平成30年度は募集107名に対し133名の申し込みがあったが、最終的に国基準の待機児童は3名だった。

平成31年度は、募集115名に対し180名の申し込みがあり、すでに保育ニーズは高まっていると認識している。

〔質問〕財源のほか、待機児童や保育の質の確保等、今回の無償化には課題も多いが、無償化への所見を伺う。

〔答弁〕【市長】子育て支援を推進するということは大賛成であるが、国が示した期間以降は自治体にも負担が求められる。無償化に伴う経費は一時的なものではなく、継続的に無償化の関連経費が増大し、新たな財源負担を強いることは、保育以外に自治体が行なうべき施策への影響が懸念される。

地方消費税は、保育をはじめとする子育て、教育、医療、高齢者福祉などに必要な財源として自治体が活用すべきものであり、今後の施策に影響が危惧されていることから、全国市長会に地方負担の軽減を働きかけていくなど、安定した財政運営ができるように尽力していきたい。

〔その他の質問〕

◎白石市中学生議会に
ついで
◎キャッシュレス化推進
について

本市の中山間地のインフラについて

大野 栄光



〔質問〕面積が広い本市は、自然環境に恵まれた中山間地が多い。

未舗装の道路や劣化した長年の舗装道では、高齢化に伴い免許返納した人たちの電動カート走行にも危険が感じられる。

早急な対応を望むが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】中山間地のインフラ整備も市民生活の基盤として重要な要素であると認識している。

舗装劣化等への早急な対応については、市全域を見ながら、安全確保を第一に対応しているが、市民一人一人が不便と感じている事案がた

くさんある中で、全ての要望に対応することには限界があるため、財政状況を勘案し、優先順位をつけて対応していく。

◎水田の大型化について

〔質問〕本市の水田構造は30アールと15アールが主で、50年前の構想で整地されている。

現在は作業システムが大型化され、個人委託も多く、小さい耕地は生産口スが経営の足かせとなっている。

圃場面積が50アールから1ヘクタール必要と思われる今の農業機械体系について意見を伺う。

〔答弁〕【農林課長】圃場の大区画化は、農作業を効率よく効果を発揮するために必要なハード面の整備であるが、大区画圃場では、大量の用水が集中して必要に

なることから、水量と水源の確保が重要になるなど課題も多く、今後、担い手や生産者の意向を踏まえ、慎重に検討していきたいと考えている。

◎農家の作物被害について

〔質問〕今年も昨年に続き、山麓地区の畜産農家は、飼料作物であるコーンが台風により多大な被害を被り、経営に打撃を受けた。

本市の畜産業を守るためにも行政としての応援のすべはないものか所見を伺う。

〔答弁〕【農林課長】市内では台風24号による強風の影響で多大な被害が発生しており、畜産農家のみに市単独で支援を行うことは考えていない。

相次ぐ自然災害による農業被害については、国や県に対して要望を行うなどに努めていきたい。

市長の政治姿勢について

伊藤 勝美



〔質問〕市長に就任されて2年を迎えた現在の心境を伺う。

〔答弁〕〔市長〕山積する市政課題を解決すべく、スピード感を持って積極果敢にチャレンジしてきました。今後も白石市の魅力を最大限にPRしていきたいと考えています。

また、残りの任期も「市民の笑顔あふれる白石」の実現に向けて全力疾走、全力投球で頑張りたいです。
〔質問〕各地区において「自治会長と市長の地区懇談会」が開催されたが、意見、要望等がどのような内容であったのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕多く出されたことは、こじゅうろ

く、不安は尽きないと思うが、今回の改正について市長の見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕今回の改正では、地方公共団体が経営主体のまま、民間事業者に運営権を渡す形での官民連携であるコンセッションにより事業が行えるようになる。

今後、ますます厳しくなる経営環境の中、持続可能な水道事業とするためには、経営基盤の強化が必要であり、民間のノウハウも最大限生かしながら対処していかなければならず、そのための改正であると認識している。本市としては、広域連携の推進が着実に進むことを期待したい。

【その他の質問】

◎平成31年度予算編成方針について

◎森林経営管理法について

予算に関係するものは、現在、来年度予算編成中のため精査中である。
〔質問〕平成30年12月、「十分な審議がなされていない」という批判も多い中「改正水道法」が成立し、今後は水道事業の民営化が可能になる。
海外では「再公営化」となった失敗例も数多

いじめの現状と対策について

佐久間 儀郎



8件増加している。

〔質問〕いじめという問題については、学校だけで解決できるものではなく、学校、家庭、企業、地域社会等の協力が不可欠であり、学校と地域が連携して市民の総力をあげて、市民と行政が一体となって活動を展開していく必要がある。

いじめ等の防止に関する基本理念を定め、市、市民、学校、社会福祉施設、企業、公的機関、家庭や地域社会の責務及び役割を明らかにする「いじめ防止条例」の制定が本市でも必要ではないかと考えるが、所見を伺う。

このことについて、本市の実態、現状を伺う。
〔答弁〕〔教育長〕平成29年度に認知した本市のいじめの件数は、小学校で13件、中学校で19件であり、前年対比として、小学校で5件、中学校で

絡協議会等条例を制定し、いじめ防止に関する推進体制、事案が発生した場合の対応体制を整備し、また、法に基づき白石市いじめ防止基本方針及び各学校において個別にいじめ防止基本方針を定め、法の趣旨に従い、全市的にいじめ防止等に取り組んでいる。

一方、宮城県においては、宮城県いじめ防止対策推進条例を制定し、基本理念、市町村立学校を含む学校及び学校の教職員の責務、保護者の責務等、さらには県及び県教育委員会の市町村に対する役割を規定している。

いじめ防止条例制定については、近隣自治体の動向を注視していきたいと考えている。

【その他の質問】

◎児童・生徒の表彰条例について

例として

白石市中学生議会が開催されました

議会では、若い世代に市政への関心を高めてもらうため、議員による実行委員会を組織し、白石市・白石市教育委員会に協力をいただき「白石市中学生議会」を平成30年11月4日に開催しました。

市内全6校の生徒23人（1人欠席）が市議会議場の質問者席に立ち、市政の課題に対する質問や提言等について、市長をはじめとする市当局に投げ掛け、議論を深めました。質問・提言された事項は次のとおりです。



中学生議員による質問の様子

●白石中学校（1班）

小野 叶絵 さん

「産後ケア費用補助金交付事業について」

佐藤 音羽 さん

「防災対策、避難行動要支援者の『避難支援個別計画』の作成について」

佐藤 大志 さん

「定住化促進事業について」

佐藤 佑亮 さん

「空き家、空き店舗など対策事業について」

前田 惟名 さん

「観光業と安全・安心なまちづくりについて」

山家 碧泉 さん

「伝統産業の継承について」

●南中学校

遠藤 明日香 さん

「白石市の人口減少に関して」

佐藤 汰一 さん

「白石市の人口減少に関して」

●白川中学校

小野 侑奈 さん

「子ども医療費助成を含めた子育て支援策について」

高橋 優輝 さん

「若者の農業従事者対策について」

佐藤 遼真 さん

「市民バスの運用と観光産業の振興について」

●福岡中学校

高野 秀人 さん

「こじゅうろうキッズランドについて」

大橋 理奈 さん

「商店街の空き店舗対策事業について」

新山 銀哉 さん

「環境の整備について」

●小原中学校

佐藤 康太 さん

「白石市民バス『きゅっするくん』について」

高橋 隆晟 さん

「観光、アクセスについて」

高橋 諒多 さん

「小原地区の活性化について」

※欠席のため、高橋隆晟さんによる代読

●東中学校（1班）

古山 美月 さん

「白石市の高齢者人口の変化、将来予測について」

生江 志保子 さん

「高齢者福祉施設の数と職員数について」

白戸 愛菜 さん

「高齢者の交通手段である市民バスや介護タクシーについて」

「高齢者が『安心して生活でき、生きがいのある街』について」

●東中学校（2班）

八巻 和真 さん

「小中学生の地域体験学習の受け入れについて」

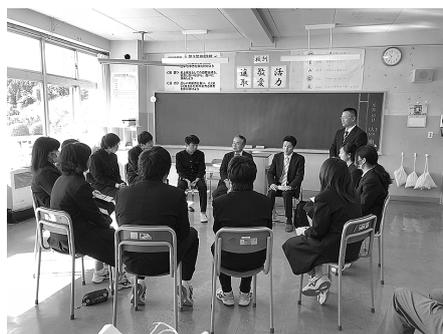
菅原 禅 さん

「地域体験学習における民泊及び各種団体との連携について」

渡邊 陽向 さん

「市の産業育成策について」

また、「白石市中学生議会」の開催にあたり、実行委員会の議員が各中学校へ訪問し、議会についての説明や質疑応答を行いました。



中学校訪問の様子（左：福岡中学校 右：白川中学校）

第5回市民と議会の意見交換会を開催します！

白石市議会では、市民の皆さまに開かれた議会を目指していくため、第5回目の意見交換会を下記の日程で開催します。

今回は、各常任委員会ごとに、それぞれテーマを設定して休日に開催します。

皆さまのご参加をお待ちしています。※申し込みは不要です。お気軽にお越しください。

総務産業建設常任委員会

◎開催日時 平成31年3月24日(日)

①午前10時～午前11時30分 ②午後2時～午後3時30分

※受付開始は、それぞれ開始30分前からです。

※①、②とも同じ内容で行います。ご都合の良い時間でご参加ください。

◎会場 白石市役所 4階 大会議室

◎開催内容 市民との意見交換

テーマ：①工業団地の先行的造成について

②観光客誘客について

テーマごとに意見交換を行います。皆さまのご意見をぜひ、お聞かせください。

◎出席議員

山谷清(委員長)、大野栄光(副委員長)、保科善一郎、澁谷政義、管野恭子、志村新一郎、四竈英夫、小川正人、佐藤聡一

厚生文教常任委員会

◎開催日時 平成31年3月31日(日)

①午前10時～午前11時30分 ②午後2時～午後3時30分

※受付開始は、それぞれ開始30分前からです。

※①、②とも同じ内容で行います。ご都合の良い時間でご参加ください。

◎会場 白石市役所 4階 大会議室

◎開催内容 市民との意見交換

テーマ：健康・福祉、子育て、教育について

～一緒に未来を考えましょう！！～

健康・福祉、子育て、教育のグループを設けます。自由に移動して懇談ができます。

◎出席議員

松野久郎(委員長)、佐藤秀行(副委員長)、佐藤龍彦、伊藤勝美、沼倉啓介、平間知一、菊地忠久、大町栄信、佐久間儀郎

議会広報委員会	委員
委員長	管野 恭子
副委員長	佐藤 聡一
委員	佐藤 龍彦
委員	保科善一郎
委員	伊藤 勝美
委員	四竈 英夫
委員	菊地 忠久
委員	佐藤 秀行
委員	松野 久郎

昨年(2019年)の世相を表す漢字一文字は「災」でした。大阪や北海道の地震、西日本豪雨や台風、さらには記録的な猛暑に見舞われた年を反映したものでしょう。

「災」は平成16年の新潟県中越地震があった年以來、2度目のこと。阪神・淡路大震災は「震」、東日本大震災は「絆」でした。平成を締めくくる年が「災」となり、複雑な思いでもありません。

12月議会では、この春にオープン予定の「おもしろいし市場」に関する条例が制定され、新たな施設への期待がかかります。また、小中学校へのエアコン設置のための予算も計上されました。

元号も改まり、新しい年が災い転じて福となす輝かしい年であることをお祈りいたします。

議会広報委員会
四竈 英夫

編集後記